

【ねがいはしては】

平成27年5月24日

KYOWA SCHOOL

第295号

「評価があれば」

ある栗田のランチ講習のことです。夕方になり、そろそろ空腹感がやってきそうな時間になりました。おやつタイムを気にし始める子がちらちら・・・。「おなかへった人？」手、手、手・・・。

というわけでホットケーキでも作りましょうか。と、なりました。

ランチは私が責任もって作っているのですが、おやつとなると「作れば？」と、生徒たちに任せることがしばしばで、ある中1の子2人に任せることにしました。

「計量カップありますか？」ケーキのもとが入った袋の裏面を読みながら聞いてきます。普段私は料理にほとんど計量なるものは使っていません。すべて感覚、フィーリングというものを使っています。それがまたかなりうまくいくものですから・・・。

どこからともなく探し出して渡します。「えーと。」ふくろに書かれるままに手が進みます。

やがて私の鼻に異常を感じます。(焦げ臭い・・・)「あれっ、強火でやってるの・・・。」啞然・・・。

「何やってんの、強火で焼く人なんかいないよ。」「えー、だってわかんないんだもん。」

で、出来たのが黒いホットケーキ。その失敗で、つぎからは弱火で・・・。

「やったことないし、初めてだったんだもん。」私はこの一件で、感慨深い感情を抱きました。普段の生活に必要なことが学べていない・・・。子どもたちは学校という現場で、何を学んでいるのだろう。単純に考えて、『生き方』だと思います。広く考えれば、どのような道を歩むのか・・・。視点を狭くしていくと、生きるための具体的行動。

学校の先生方に言わせれば、それは家庭での学習なのでは・・・。という意見が大半でしょう。しかし現代にあっては、「料理などは危険さわまりない、包丁など持たせるわけにいかない。あなたは自室で勉強しなさい。」といった言がお母さん方からは飛び交うのかもしれませんが。

もし、ホットケーキを焼くことが学校の評価にあるとしたら・・・。変な考えかもしれませんが、私の脳裏に浮かびます。で、聞いてみました。

「じゃー、もし学校のテストにホットケーキ焼きがあったら、練習するかい。」「当たり前じゃないですか。」

啞然その2。

子どもたちは知らない間に、評価が自分の生き方の中に土台として入り込んでしまっている。

では、トイレ掃除の評価、部屋の整理整頓の評価、ぞうきんがけの評価、食事時のマナーの評価、挨拶の仕方の評価、言葉遣いの評価・・・。学校から渡される通知表に数十個にわたる評価が整然と並んでいたなら、彼らはその項目のみに集中しながら学校生活を送るのでしょうか。

私の中には、口をあいたままの自分が立っています。

ごくごく当たり前なこと。モラルはどこへ行ってしまったのでしょうか。文部科学省では、道徳科を平成30年度より実施するという計画を発表しました。子どもたちは評価を気にすることで、建前上の道徳を吸収し、本来の思いやりや優しさを、心の底から身につけてくれるのでしょうか。

当たり前なことはどこへ行ってしまったのでしょうか。子どもたちが学校で勉強することは、当たり前なことです。わからないことは「わかりません」といって、質問するのが当たり前です。わからないから学校へ行っているわけで、その日の学校での勉強が、前もってすべてわかっていたのなら、学校へ行く必要はありません。給食という健康保持のための行為と、友だち間の親睦を深める時間としてあるようなものです。

大人たちは評価というものを使って、子どもたちに恐怖心を抱かせ、机に向かわせようとしているように感じてしまいます。家庭では、評価というものを使って、条件付きの勉強をさせようと躍起になります。(成績が上がったら、スマホ買ってあげるわよ・・・)

その行為によって、子どもたちは「評価がないものはやらなくて良いのだ。」という必然性を手にしてしまうと言っても過言ではないと思います。

常に何が良くて何が悪いのか、常に何をすることが当たり前のかを、土台として身につけなければならないと思います。子どもたちは、常に顔色を見ながら生活しています。学校では、怖い先生と優しい先生で接し方が違うように、評価に値するものはやるし、値しないものはやらなくていいといった気持ちを抱いてしまいます。

では、評価をなくしたら・・・。評価のないところからスタートしたら・・・。常に「当たり前」を念頭に置きながら、身のふりを考えると思うのです。

評価であふれかえる教育の世界を作ってしまったのは、紛れもない大人たちです。評価がホットケーキを焼くことさえ出来なくしてしまったのです。・・・かも。

さて、みんな、勉強を楽しむ気持ちを育てようね。「評価って何ですか。」って言葉の意味を初めて調べるくらいに、自由に学ぶって本当に楽しいよね。学年撤廃、評価撤廃、となりの人にニコッ！ ありがとね。